

67157

旧番号  
IAX(14)

67157

(14)

「日本銀行意見」ほか (1冊)

金融史資料	
分類記号	I A x
整理番号	23(14)
資料名	松尾元総裁 所蔵資料
保管容器	口108

研30009

日本銀行意見

御使爲所ヲ國庫債券事務取扱ニ關シ利用  
スル方法ハ別紙ノ如ク教指アリ今之ヲ審酌スルニ  
畢竟其利用ノ程度ニ於テ相異ナルモトス  
逋信省ノ提接ハ首名入金ノ運轉順序ヨリ  
云ハ日本銀行トノ脈絡整止然トシテ尙然スル  
所ナキニ國債事務取扱ノ上ヨリスルトキハ日本銀  
行トノ連絡殆ド致如シ現制ノ各地代理店銀  
行分業整理ノ利益益ヲ減却スルノ疑アリ何  
トナルバ同指ニヨルトキハ其事務取扱ハ全國局  
所ニ涉リ事務ノ範圍ハ殆ド代理店銀行  
業ニ其出張所ノ取扱ヲモノテ終テ行フモノナルヲ  
以テ各地ニ於ケル債主ノ記名台帳ハ東京局并ニ  
日本銀行本店ニ於テ之ヲ整理スルモノナリ各地

局所取扱ノ事務ノ取纏ヲ終テ日本銀行  
 本店ニ於テ之ヲ為サルベカラズシテ到底之ヲ委理  
 スルヲ得サルコトハ又之ヲ現制ト并ヒ行フトキハ  
 同一地ノ債主ニシテ一人ハ其地所在ノ代理店銀  
 行ノ記名及登録簿アリ其所有債券ニ關スル  
 事務概ハ一切其地ニ於テ委辦シ得ルハラス  
 一人ノ債主ハ郵便局所ノ取扱ニ属スルヲ以テ  
 遠隔地ニ東京日本銀行本店ノ所管事務  
 務トシテ總テ其所有債券ニ關スル事務概ハ且  
 東京ニ送付セラルルニ非ハ委辦シ得サルコトナリ  
 其不便ハ蓋シ堪ヘサルヲマラントス又之ヲ國債  
 政策上ヨリ見テ各地取扱銀行ノ取扱育内ハ  
 之カ為ラズ其有ルニシテ減少シ其利益ハ大ニ減殺

セラルコトナルハ其結果債上銀行利用ノ効果ハ此  
 ニ依リテ全然没却セラルヘク其得失裁奪者ヲ  
 俟テ後ニ知ルベキニ非ルナリ

政策上ヨリ見テモ各地取扱銀行ノ取扱育内ハ  
之カ為ラキ著ルシク減少シ其利益ハ大ニ減殺

セラル、コトナルヘク、**暮債上銀行利用ノ効果ハ此**  
ニ依リテ全然没却セラルヘク、其得失、**識者ヲ**  
**俟テ後ニ知ルベキニ非ルナリ**

**要スルニ本邦亦モヨルトキハ郵便局所ヲ利用**  
**スルノ程度最モ多キモノナレトモ却テ事務上、**

**首途債政策上及債主ノ便利上ヨリ考ヘ不利**  
**ナル結果ニ陥ルシカモアルナリ故ニ現行ノ代理店**

**銀行取扱ノ制ニ抵触セズ其利益ヲ害セズ**  
**其助成機關トシテ公債應答者、便利ヲ**

**與フル為ラキ郵便局所ヲ利用スル程度ノ方**  
**極ラ極ハサルヘカラス他ノ救案ヲ查覈スルニ**

**便局所ヲ首途債事務取扱ノ機關トシテハ**  
**竟大ニ如キ趣旨ニ帰着スルニ郵便局所ヲ**

一取扱銀行ノ出張所ト同様ノ範圍ノ事  
 務ヲ取扱ハシメントスルモ<sup>第三案</sup> 二取扱銀行ト  
 債主ノ間ニ立ケテ申渡シ<sup>第一案</sup> 三取扱銀行ト  
 シメントスルモ<sup>第二案</sup> 四取扱銀行ト申渡シ<sup>第三案</sup> 五取扱銀行ト申渡シ  
 居宅取立ノ方法ヲ括ラシメントスルモ<sup>第七案</sup> 是ナリ又周  
 債取扱ニ関シ御使料金及為替料金ノ  
 免除ニヨリ債主ノ利便ヲ計ル一案ト取扱銀  
 行<sup>取扱銀行</sup>シテ居宅取立ノ方案ト共ニ御使料金所  
 用スルモノニ非ルヲ以テ<sup>御使料金</sup> 借キ以上ノ三方  
 法ノ内ニ方法ハ二所取扱ニ連ヘタル如ク取扱銀行  
 ノ利益ト種突スル嫌アルヲ以テ之ヲ括ラズ<sup>三</sup> 三ノ  
 方法ニ多少ノ缺欠ナキニ非ルモ取扱銀行ノ  
 利益ヲ害スルコトナク<sup>債主</sup> 債主ニモ便利ナルヲ以テ御

便宜著ニ於テ所要ノ手續ヲ簡シ日本銀行  
 ト事務上ノ連絡ヲ保ツコトヲ得ルニ於テハ實ニ  
 行上稍穩健ナラント信ズ而シテ之ヲ実行

方法ニ多少ノ缺矣ナキニ非ルモ取扱銀行ノ  
利益益ヲ害スルコトナク債主ニモ便利ナルヲ以テ郵

便官署ニ於テ所要ノ手續ヲ簡シ日本銀行  
ト事務上ノ連絡ヲ保ツコトヲ得ルニ於テハ實質  
行上稍穩健ナラント信ズ而シテ之ヲ実行  
スルニハ土地ノ情況ニヨリ或ハ之ヲ軍用ニ或ハ之  
ヲ併用スルコトニスベシ

國庫債券取扱ニ關シ債主ト取扱銀行  
間ノ郵稅ヲ豁免料免除ノ債主ノ利便ヲ圖  
ル上ヨリ之ヲ実行ヲ希望スルハ勿論ナリトス

右郵便局所利用并ニ税金免除ノ外特  
別ナル土地ノ情況ニ應ジテ取扱銀行員派出  
取立ノ方法ニ爲シ得ル程度ニ於テ之ヲ実行  
スルモ亦可ナルハント信ズ



各埠對之概評

第一案

(通信省案)

本案ニ依ルトキハ應募者ハ數ナカラサル  
 便利ヲ得ヘシト云トモ東京局ハ恰モ代  
 理店ノ地位ニ立テ其結果ハ代理店  
 及其出張所即取扱銀行ノ利益ヲ減  
 殺シ莫債上銀行ヲ阻外スルコトナリ而  
 白カラス又事務上日本銀行ハ代理店  
 ニ備ヘ置クト同様ノ記名簿ヲ備ヘサルヘカ  
 ラズシテ二重ノ手数料ヲ取具スルコトナラス日本  
 銀行及各省階級ノ郵便局所ニ於テ夫々  
 手数料ヲ要スルコトニテ今回ノ如ク募集締  
 切、期日ト取債券ヲ交付スヘキ第二回株

之期日トノ間日數僅少ナル場合ニ於テハ到底實行スルニトテ得サルヘシ

第二案

本案ハ一ハ場所ニ依リ取扱局所ヲ制限シハ應募金高ニ依リ制限ヲ附スルマデニテ其方法ハ第一案ト同様ナルヲ以テ募債政策上及實務上概難アルヲ免レズ

第三案

本案ハ郵便局所ヲシテ出張所ト同地位ニ立タシメ代理店ノ下ニ於テ之カ取扱ヲ為サシムルモノニテ第一案ニ優ルハ勿論ナルトモ第二案ト同様ノ制限ヲ附スルハ如何カト思考ス但梯江ニ對シテ欲收証

書ヲ交付シ取扱券ニ記入セサルハ出張所ノ取扱ト異ナレリ

第四案

元第二案と同様ノ制限ヲ附スルハ如何  
カト思考ス但榊江ニ對シテ欲收証

書ヲ交付シ後債券ニ記入セサルハ出張所  
ノ取扱ト異ナレリ

### 第四案

本案ハ應募者カ郵便ヲ以テ直接ニ  
代理店ニ榊江ヲ為ストテ許シ其郵  
便税及為替料ヲ無料トスルノ案ニシテ郵  
便局所ヲシテ榊江ノ取扱ヲ為サシムルト  
否トニ拘ラス其實行ヲ望ムモノナリ

### 第五案

(日本銀行案)

本案ハ出張所ト同一ノ取扱ヲ為サシムルモノ  
ニテ第三案ニ類スルモノナリが據所又ハ金  
高ヲ制限セサルカ故第一案及第二案  
同様代理店又ハ出張所ノ利益ヲ殺ラ

ノ嫌アリ

第六案 (全上)

本案ハ單ニ取次ヲ為サシムルモノナレハ取扱  
銀行ノ利益ヲ殺クノ虞ナキモ 郵便局  
所ハ應募者者ニ對シ 願リ証書ヲ文件ニ置  
キ代理店又ハ出張所ヨリ領收証書ノ到  
達ニタトキ 引替ヲ為スノ煩アリ

第七案 (全上)

本案ハ郵便局所ヨリ集配人ヲ派シ  
應募者者ノ居宅ニ就キ領收証書ト引替  
ニ掛江金ヲ領收スルモノナレハ應募者者ノ便  
利此上ナキモ 郵便局所ニ於テ一定ノ領收金  
額証書ヲ前以テ発行スルコトガ其取締

上如何ト問題ヲ生スベシ又其領收スヘキ  
金額ノ確定ナラザルニ據合アルコトハ此案ノ一  
欽トスナリトス

二 押込金ヲ領收スルモノモハ應募者ノ便  
利此上ヤキモ郵便局所ニ於テ一定ノ領收金  
額証書ヲ前以テ発行スルモノガ其取締

上如何トノ問題ヲ生スベシ又其領收スヘキ  
金額ノ確定ナラサレバ場合アルコトハ此案ノ一  
欵トスナリトス

### 第八案

本案ハ代理店又ハ出張所ヨリ受取人ヲ  
派シ領收証書ト引換ニ押込金ヲ領收ス  
ルノ方法ナルカ代理店ハ途中ノ危険ヲ負  
担セザンヘカラサレノ困難アリ

之レヲ要スルニ國庫債若ハ事務ノ取扱ニ関シ  
債主ノ便利ノ爲メニ郵便局所ヲ利用セント  
スル各指多ク不便アリ其内實是行上稍  
妥當ト認ムベキハ第五案及第七案ニ  
シテ之ヲ土地ノ情況ニ從ヒ或ハ軍用或ハ保

用ニ尚情況ニ應ニテ第八案ヲ執行スルニ  
 其ハ債主ノ便利ハ充分ニ之ヲ充スヲ得ベキ歟  
 其四接ノ方法ハ卸便ニ其物ヲ機関ト  
 シテ用スルニ非ルコトヲ本問題ノ外ニカハシト  
 是ハ債主ノ利便ヲ計ル上ヨリ採用セラレ  
 コトヲ希望スルモノナリ



第一  
第二

目錄  
 總体閣議  
 臨時軍事費豫算不足追加關之見込



第一

第二

第三  
第四  
第五  
第六  
第七  
第八  
第九  
第十

目錄

總體閣議

臨時軍事費預算不足追加閣議見也

計算

臨時事件豫備費預算不足追加閣議

見也計算

國債整理、閣議方針

國債整理基金特別會計法案

國債整理、閣議減債計算

國債整理、閣議官制

國債整理委員規則

海外駐在總代理官官制

昭和三十年年度預算方針



第十一

自三十九年度，於此時局，結果，係一經費

強與方針

第十二

自三十九年度，於此正債，係一也計策

第十三

兌換，銀行券發行，整理，見也計策

第十四

非常，特別，稅，整理，方針

(第二)

閣議案

今日... 結果... 經費...

(第一)

閣議案

今般日露媾和談判ノ結果軍費賠償金ノ  
收入之十ニコトニ決定相成候ニ付テハ戦後財政ノ  
始末ハ非常ノ困難ヲ来タシ國債ノ整理要分  
等強ト國家ノ運命ニ関スルキ問題ニシテ財政  
上火急ノ決定ヲ要スルモノ少ナカラズ然レモ各省  
より提出可成諸般ノ材料ニシテ未タ具備  
セサルモノ多ク有ク未タ完全ノ定案ヲ提出スル  
ノ時期ニ達セズ候ハトモ茲ニ最モ急ヲ要シ  
一日ヲ後フスニ付ラサレ事項ヲ付テ大要別冊ニ具  
陳致候ニ付右至急御決定相成度此般

閣議ヲ請フ

年月日

大藏大臣

由多総理大臣宛

(第二)

臨時軍事費豫算不足追加に關する件

計真

(第二)

臨時軍事費豫算之追加。関スル也

計算

一金志億圓

一金三億圓

一金志億圓

既定軍事費不足額

軍隊引揚諸費

陸海軍其他一時賜金

計金五億圓 (既定豫算十二億三千六百萬圓ト合シテ)

右ニ對スル財源

一金志億四千八百万圓

一金千万圓

一金三億四千貳百万圓

計金五億圓

既募集公債殘額

前年交剩餘金

公債募集所要高

備考

一 既定軍事費不足額ハ曩ハ陸軍省  
 本年內不足額トシテ要求スル約三億圓方  
 圓ニ對シテ平和克復ノ結果来ル十月ヲ軍  
 隊ノ引揚ニ着手スルモノトセハ其以後ニ於テ  
 ル軍隊維持費之ヲ要セザルモノト見込控除  
 シ及平和克復ノ結果當ニ從來ノ作戰経  
 費ニ付テ諸費ハ不用ニ屬スルモノト認メ大体  
 大節約ノ方針ヲ取ルノ見込ヲ以テ不足追加  
 要スル額ヲ曩日ノ要求總額ノ約三分一  
 弱即チ壹億圓ト査定ス

一 軍隊引揚諸費ハ陸軍省経画ニ依レハ  
 引揚着手後八箇月ヲ要スルノ見込ナシ

經費節約ノ目的ヲ以テ其期間ヲ六箇月  
 ニ短縮シ来ル十月ヲ着手シ来ル三十  
 九年三月マテ結了スルモノトシ要求總額  
 三億三千貳百八拾萬圓餘ヲ三億圓ト査

要スル額、暴日ノ要亦終究、今三億ノ  
弱即チ壹億圓ト査定ス

一軍隊引揚諸費ハ陸軍省経画ニ依レハ  
引揚着手後八箇月ヲ要スル見込ナシ

經費節約ノ目的ヲ以テ其期間ヲ六箇月  
ニ短縮シ来ん十月ヨリ着手シ来ん三十  
九年三月マテ、結了スルモノトシ要求総額  
三億三千貳百八拾万圓餘ヲ三億圓ト查  
定ス

一海軍・關スル臨時費ハ本年四月ニ平時ニ復  
スルモノトスルトキハ多少ノ剩餘ヲ生スヘキ見込  
ナシモ其對テ知リ難キニ依リ、今之ヲ控除  
ス

一公債募集所要額三億四千貳百万圓ヲ考  
行價格百圓ニ付九拾圓ノ計算ヲ以テ  
募集スルモノトスルトキハ額面約三億八千  
万圓ヲ要スル見込ナシ

右ノ追加款中ニ陸海軍復旧費ハ莫入レズ而シテ  
テ茲ニ最モ困難ノ感スルハ右財源中ニ公債三  
億四千二百萬圓ノ募集ナラントス  
今ヤ内地市場ハ金利騰貴シ且媾和談判非  
常ノ不人氣ニシテ強ク債秩ノ開始スルノ見込ナ  
ク軍費ノ仕掛ハ日々増加シ随テ紙幣ハ益々膨  
脹シ物價ハ騰貴シ輸入ノ益々増進シ正貨ハ日々  
減少スルノ虞アリテ是非共連シ人氣ヲ作り且  
テレ由債ノ發行ヲ強行セサルヲ得ザルトス  
云債券某款ノ由一億圓ハ一時賜金ニ當ルヲ  
以テ大藏省款全部ニ於テ引文ノ見込アリ約五千  
萬圓ハ軍用手票ヲ以テ一時代用シ追テ整理ノ  
見込殘款一億九千下圓ハ市場ニ發行ノ要ナク

モ捕虜給養費トシテ露國ヨリ受取ルルアリハ  
夫レ又々ハ差引ラ爲レ公債發行ニ及ス但右給  
養費ノ又々入方遲延スルトキハ矢張り公債ノ發  
行ニ必要トス

公債募集額一億五千  
少大蔵有款全部に於て引交り見込あり約五千  
一國の軍用手票を以て一時代用し追々整理の  
見込残額一億五千下位の市場に發行し要する

毛捕虜給養費トシテ露國より交付せしむ  
夫レ又々ハ差引ラるレ公債發行ニ及ス但右給  
養費ハ又一方遲延スルトシテ矢張り公債の發  
行ニ必要トス

捕虜給養費ハ未以テ發行スルニ

(第三)

一金三千二百萬圓

臨時事件豫備費不足追加之額乃見此計畫

臨時事件豫備費不足追加

但三十八年度既定豫算八千萬圓卜合之于一億

(第三)

臨時事は豫備費不足追加に關する見込計案

臨時事は豫備費不足追加

一金三千二百萬圓

但三十八年度既定豫算八千萬圓ト合シテ一億

千二百萬圓トス

右ノ不足ヲ生シタシハ主トシテ公債募集額増加ノ為メ

利子仕押ノ増加セルニ由ルモノトシテ其他内訳ヲ列举

スレハ率子左ノ如シ

一金百拾六萬四千六百圓

豫定外事項ニ要シタシ經費

一金百五拾七萬四千七百圓

葉烟草徵收費不足額

一金貳千三百四拾壹萬四千四百圓

公債利子及募集費不足額

計金三千百拾五萬三千七百圓

右不足追加に對スル財源ハ三十七年度剩餘金の内

ヲ以テ之ニ充テントス

(第四)

國債整理ニ関スル方針

戰後經營上最ニ緊急ヲ要スルハ實ニ公債ノ整理  
ニシテ開戦以來今日マテニ政府カ發行セシ公債額  
面ハ今後發行ヲ必要トスル金額三億四千二百万圓ヲ

國債整理の関する方針

戦後經營上最ニ緊急ヲ要スルハ實ニ公債ノ整理ニシテ開戦以來今日マテニ政府カ發行セシ公債額面ニ今後發行ヲ必要トスル金額三億四千方圓ヲ別トシ既ニ拾貳億八千方圓餘ニ及ビ此他ノ巨額ノ時借入金アリ而シテ右公債ノ過半ハ短期ニシテ金利モ亦高シコト時局ノ急ニ應ズルカ為止ムヲ得ルニ出タリト云ハ其債を時期ノ继续ニシテ接収セシハ整理上甚ク困難ヲ感ズル所ナリ且又今日ノ如ク金利高キニ及ビ公債ノ價格低キトキハ外國人ニ續ニ公債ヲ買入レ外國ニ輸出スルカ故ニ元利ノ仕拂上ニ於テ多大ノ損失ヲ免レスニ七八年日清戦役後本邦經營上困難ヲ来シタル原因ニ公債ヲ整理

理に其價格ヲ維持スルノ注意ヲ欠キ先ニ在リ故ニ  
今更ハ先以テ之ヲ債ヲ整理シ其價格ヲ維持シ因  
リ以テ財政經濟ヲ調和セシムルヲ以テ戰後第一ノ要  
務ト爲セトス依テ存妙ノ方針ヲ定メ之ヲ確守  
スルモトス

第一 従来ノ減債方策ハ之ヲ改メ更ニ日露戦争ニ

關スル公債(一時借入金共以下同)ト云フ新

減債方策ヲ定ムルコト

第二 右減債資金毎年ノ定款ハ総テ債款ノ五

分利三十分年減ニシテ尙有シ得ル金額ヲ標

準トスルコト

第三 公債整理ノ爲新ニ基金ヲ置キ之シカ特別會計

法ヲ設ケルコト

第四 右特別會計ハ公債額部ノ爲メ今後特別指定

スル財源ヲ文入并ニ毎年度ノ減債資金ヲ

一般會計ヨリ文入ルコト

第五 右特別會計ハ公債ノ抽籤償還及買上償還

債  
償  
還  
手  
続  
目  
録

分利三十ヶ年減... 満期に得ル金額ヲ標  
準トスルコト

第三 公債整理ノ為新、基金ヲ置キ之シカ特別會計  
法ヲ設クルコト

第四 右特別會計ハ公債銷却ノ為メ今後特別指定  
元財源ヲ支入并ニ毎年度ノ減債資金ヲ  
一般會計ヨリ支入ルコト

第五 右特別會計ハ公債ノ抽籤償還及買上償還  
ヲ為シ利子ノ仕掛ト其他資金ヲ自由ニ運用利  
益ニ得ルコト

第六 右特別會計ハ公債整理ノ為低利ノ公債ヲ發  
行シ及一時借入金ヲ為シ得ルコト

第七 公債ノ價格ヲ引上ぐる為自然ノ趨勢ニ及セ  
限リ日本銀行其他一般ノ金利ハ之ヲ低下スル  
方針ヲ取ルコト

第八 公債ノ相場ヲ調和シ之カ流通ヲ圓滑ナラシ  
メ株式取引所ノ操縦與共進メ嚴スルコト

稅率ノ高下ニ依リテ他ノ公債ノ利率ヲ  
調整スルコト

△後

價物指目  
利殖力目的  
アラス

△前

價物指目  
資金

9割

△兵部事務  
△財政部事務  
△陸軍部事務  
△海軍部事務  
△農商部事務  
△内務部事務  
△司法部事務  
△教育部事務  
△外交部事務  
△各部事務

第九 公債の發行、税之ヲ廢止シ其取引ヲ便スルコト

第十 公債ノ需要ヲ増加セシメ為ニ公債證書ノ取扱

ヲ便利安全トスルハ勿論新便貯金羅災救

助基金等ノ増強ヲ計リ以テ公債ヲ買入又各

種保證書ハ尤テ公債證書ヲ用ヒシム方

針ヲ執ルコト

第十一 日本銀行ヲシテ公債證書ノ担保トシテ割

合ヲ善クシ便宜ヲ与フコト方針ヲ執ラシムコト

△ 外國市場ニ於テ公債ノ整理ハ内地ト趣ク

異ニシテ其商業的ナルヲ以テ輸出ノ操縦

ヲ巧ニシ其目的ヲ達スルコトヲ期スルコト從テ特

別會計法上者ト著ク之ヲ自由ニ与フルコト

尤モ事後ノ整備ヲ嚴ニスルハ勿論ナリ

第十三 前項ノ目的ヲ達スル為ニ海外稅要ノ地ニ財政代

理官ヲ設クシテ之ヲ執ルコト

第十四 公債整理ノ事務ハ戰後ニ肝要ノ大事業

異にシテ今ノ商業のたゞの買上賣出の操作  
ヲ巧に其目的ヲ達せんコトヲ期せんコト從テ特  
別會計法上者ト者ト之を分テ自由ヲ与ふるコト  
尤ニ事後ノ共濟ヲ嚴ニスルハ勿論ナリ

第十三 前項の目的ヲ達スル為海外松要ノ地ニ財政代

理由ヲ設くるコト

第十四 公債整理ノ事務ニ戰後ニ肝要ノ大事業

ナルヲ以テ特ニ付國債整理ト設置シ整理

目的ヲ貫徹スル為メ一定ノ方針ヲ以

テ確實ニ実行スルコト

第十五 前項整理トシテ特ニ公債整理委員ヲ附置

シ整理方案執行上完全ヲ期せんコト

(第五)

國債整理基金特別會計法案

第一條 國債整理基金特別會計法案

(第五)

國債整理基金特別會計法案

第一條 國債整理基金ヲ云ハ其ノ事入事出ニ一般

會計ト区別シ特別ノ會計ヲ設置ス

國債整理基金ハ公債ノ製造及發行費

元利拂込ノ材料其他國債ニ關スル一切ノ費  
途ニ使用スルモノトス

第二條 國債元利金及其ノ仕掛手材料ノ支出ニ充

テキ資金ハ每年度一般會計ヨリ國債整理基

金特別會計ニ繰入ルルニ付然レモ他ノ特別會計ノ資

金及特別指定シタル財源ヲ以テ償還ノ財源ニ供

スルモノハ直接ニ之ヲ繰入ルルモノトス

改定  
五拾四



△附録  
△附録  
△附録

海外ノ市場ニ於テハ政府ハ國債整理基金ヲ以テ有價証券ノ賣買ヲ為シ及基金ニ餘額アリトキハ確實ナル方法ヲ以テ証券ノ購入又ハ短期ノ貸付ヲ為スコトヲ得

△附録  
△附録  
△附録

第五條 國債整理基金ハ政府ハ既定債額以テ之ヲ發行スルコトヲ得

國債整理基金ハ必要ナルトキハ政府ハ他ノ會計ニ屬スル資金ヲ繰起使用シ及ヒ一時借入金ヲ為スコトヲ得

△附録  
△附録  
△附録

前項ノ場合ニ於テ利率募集借入ノ方法規則ノ措置年限及償還年限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 國債整理基金ハ有價証券ヲ以テ之ヲ保有スルコトヲ得

△附録  
△附録  
△附録

第七條 國債整理基金ヲ以テ之ヲ債ノ償還ノ爲メニ用フ方法ヲ依ルコトヲ得

第八條 國債整理基金ノ運用ヲ生ズル損益ハ



△外債の整理

第十二条

昭和二十九年四月より施行す

計法ハ昭和二十八年四月限り廢止ス  
債金特別会計ニ屬スル現金有價証券等

、他、計法ハ之ヲ國債整理金特別会計  
ニ歸屬スルモノトス

(第六)

國債整理に關し減債計畫  
曰未發行ノ公債及時分、關し發行セしニ公債

(第六)

國債整理に關する減債計畫

曰末發行ノ公債及時向ノ關し發行セシメ公債  
并國庫債券ノ現在額及今後時向ノ關し  
發行見込ノ公債額ヲ三十一年ノ若クハ四十  
年濟翁方法ニ依リ償還セラルモトセハ其  
金額左如し

但現在公債ノ利率ハ四厘、四厘五厘、五厘及  
六厘ノ四種ナレトモ今之ヲ平均シ五厘率トシ  
テ計畫ス

現在ノ債額及今後臨時事件費ノ為メ發行  
見込ノ公債額ヲ三十一年濟翁方法ニ依リ償還  
スルモトナシタニ金額調 (1912年八月調)

一 債款貳拾三億四千四百九拾壹万三千九百壹拾五拾貳

内

債款三万七拾三万七千貳拾百五拾貳

無利子旧公債ノ債  
款ヲ扣除ス

旧公債八年賦償還ノ約束ニ付扣除ス

債款貳拾三億四千万三千七百七拾五拾

濟南高度ニ依リ  
償還スル金額

右ノ三十一年ノ濟南高度ノ償還スルモノ

トセハ一ノ年ニ支出ノ要スル額左ノ如シ

一年款一億五千三百貳拾九万七千三百貳拾壹

支出ノ要スル額

外

無利子公債ノ年賦款貳拾壹万九千四百五拾壹

支出ノ要スル額

計金一億五千二百五拾一万六千七百八拾四

一年支出額

右ノ三十一年 支出額

合計金四拾五億七千五百五拾万三千四百圓

内

金貳拾三億四千四百八万三千七百七拾五拾

元金

無利子公債ノ年賦額貳拾壹萬九千四百五拾五圓  
 計金一億五千二百五拾一万六千七百八拾四圓  
 右ノ三十七年ノ支出額  
 支出ノ要る額  
 一年ノ支出額

合計金四拾五億七千五百五拾万三千四百圓

内  
 金貳拾三億四千五百拾八万三千七百七拾五圓 元金  
 金貳拾貳億三千四百三拾貳万貳千貳拾五圓 利金

又四十七年ノ濟荷方法ヲ以テ償還スルモノトセハ十七年ノ  
 支出ノ要る額左ノ如シ  
 一年額一億三千六百四拾三方九千八百五拾圓 支出ノ要る額

外  
 無利子旧公債ノ年賦額貳拾壹萬九千四百五拾五圓 支出ノ要る額  
 計金一億三千六百四拾五万九千三百五圓 一年ノ支出額

右ノ四十七年ノ支出額

合計金五拾四億六千五百三拾七萬五千貳百圓

内

金貳拾三億四千貳拾八萬三千七百七拾五圓

金三拾一億二千五百拾九萬九千貳拾五圓

元金

利金

公債種類

金利  
子  
五系  
田公債  
金務公債

債 額

一六、六三一、六四〇、〇〇〇  
三、七三〇、七二六、五〇〇

果發行公債

公債種類

公利  
子  
五分  
利  
舊公債

金祿公債

海軍公債

整頓公債

軍需公債

鐵道公債

內  
五分利

內  
五分利

內  
五分利

內  
五分利

內  
五分利

臺灣事業公債

債款

三、七三〇、七二六、五〇〇

一六、六三一、六四〇、〇〇〇

八、二九七、三〇〇、〇〇〇

一六七、一二八、三五〇、〇〇〇

一二五、六四一、一五〇、〇〇〇

五七、一二六、八五〇、〇〇〇

一七、五七七、七五〇、〇〇〇

三九、五四九、一〇〇、〇〇〇

一四四、二三五、五〇〇、〇〇〇

七八、〇五二、二五〇、〇〇〇

六六、一八三、二五〇、〇〇〇

五、五九二、五〇〇、〇〇〇

二、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇

三、五九二、五〇〇、〇〇〇

三三、〇八三、〇八五、〇〇〇

臨時事件國庫債券

計

五分利 國庫債券

五五一、四六七、一〇一、五〇〇

國庫債券

一〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇

國庫債券

一〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇

國庫債券

一〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇

國庫債券

一〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇

英債公債

一〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇

英債公債

九七、六三〇、〇〇〇、〇〇〇

英債公債

一二七、一五六、〇〇〇、〇〇〇

英債公債

二九二、八九〇、〇〇〇、〇〇〇

烟草國庫債券

二九二、八九〇、〇〇〇、〇〇〇

烟草國庫債券

一、二八八、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇

烟草國庫債券

一、二九三、四四六、八〇〇、〇〇〇

烟草國庫債券

一、八四四、九一三、九〇〇、一、五〇〇

合計

臨時事件國庫債券

五分利

國庫債券

二〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇

四分半利

英債公債

三〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇

計

五〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇

英債公債  
烟草國庫債券

合計

二九二、八八〇、〇〇〇、〇〇〇  
一、二、八八〇、〇〇〇、〇〇〇  
一、二九三、四四六、八〇〇、〇〇〇  
一、八四四、九一三、九〇一、五〇〇

臨時事件三関之  
今後發行見込公債  
國庫債券  
英債公債

計

合計

二〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇  
三〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇  
五〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇  
二、三四四、九一三、九〇一、五〇〇

備考

紙幣銷却借入金貳千貳百萬元、債額アセセキ事ナリ

子ニシテ、其債還却、明治四十五年ナルヲ以テナリ

計算ニ除キ置ケリ

右今后費用見込額ヲ五億ト豫定セルハ、(第一)臨時  
軍子費除算不足追加ニ関スル計算、部ニ掲  
ケル公債額三億四千二百万円ト相違スルモ  
之ハ今后ノ額而不足等ヲ差酌シタルニ由ル

(一七七)

臨時國債整理局官制 (草案)

第一條 臨時國債整理局、大藏大臣ノ管理ニ

屬シ、國債整理ノ関スル一切ノ事務ヲ掌ル

尚

臨時國債整理局官制 (草案)

第一條 臨時國債整理局、大藏大臣ノ管理ニ

屬シ、國債整理ニ関スル一切ノ事務ヲ掌シ

第二條 臨時國債整理局ニ左ノ職員ヲ置ク

總裁 一人 親任

副總裁 一人 勅任

書記官長 一人 勅任又ハ奏任

書記官 二人 奏任

屬 三十人 判任

第三條 總裁ハ國債整理ニ関スル一切ノ事務ヲ

總理ス

第四條 副總裁ハ總裁ヲ補テ總裁ノ事務ヲ

了ルトキハ之ヲ代理ス

第五條 主任官長ハ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第六條 主任官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ局務ヲ

掌ル

第七條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第八條 國債整理ニ関スル事項ヲ審議セシムル

為ル時國債整理局ニ委員ヲ置ク

前項ノ委員ニ関スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

附則

第九條 大藏省理財局國債課ノ事務ノ全部

及同局國庫課分掌事務ノ内外國為替

及金融ニ関スル事務ハ當局ノ内之ヲ臨時國

債整理局ニ屬セシム

臨時國債整理局官制 (乙案)

第一條 臨時國債整理局ハ大藏大臣ノ管理ニ

屬シ國債ニ関スル整理事務ヲ掌ル

及同局國庫課分掌事務ノ内外國為替  
及金融ニ関スル事務ハ當分内之ヲ臨時國  
債整理局ニ屬セシム

臨時國債整理局官制（乙案）

第一條 臨時國債整理局ハ大藏大臣ノ管理ニ

屬シ國債ニ関スル整理事務ヲ掌ル

第二條 臨時國債整理局ニ左ノ職多ク置ク

局長 一人 勅任又ハ奏任

書記官 二人 奏任

屬 三十人 判任

第三條 局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ受ケ

局内一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條 書記官ハ上官ノ指揮ヲ受ケ課務ヲ掌

ル

第五條 屬ハ上官ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ従事ス

第六條 國債整理ニ関スル事務及審議セシム

附  
山崎嘉三  
有力ノモノ  
此ノ旨全ク  
守ル

為於時國債整理會ニ委員ヲ置ク  
前項委員ニ関スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

附則

第七條 理財會國債課ノ事務ハ便宜之ヲ  
時國債整理會ニ合併ス

(第八)

國債整理委員規則

第一條 國債整理ニ関スル事項ヲ審議スル為  
國債整理委員ヲ置キ委員長一名委員

國債整理委員規則

第一條 國債整理委員之職名事項ヲ審議之為

國債整理委員ヲ置キ委員長一名委員

四名ヲ以テ組織ス

第二條 委員長ハ大藏大臣官委員ハ大藏省主計

局長、大藏省理財局長、臨時國債整理局

局長及日本銀行總裁ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 特別ノ必要アル場合ニ於テハ前條定メ

外臨時委員ヲ命ズルコトヲ得

第四條 委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ内閣

ニ於テ之ヲ命ズ

△長  
之ニ充テ  
ルコトヲ  
得

第九

財政代理官々制

第一條 外國樞要ノ地ニ財政代理官ヲ置キ大蔵

大臣ノ監督ニ屬セシム

(第九)

財政代理官々制

第一條

外國概要ノ地ニ財政代理官ヲ置キ大藏

大臣ノ管轄ニ屬セシム

第二條

財政代理官ハ勅任又ハ奏任トス

第三條

財政代理官ハ大藏大臣ノ委任ニ因リ外

國ニ在リテ帝國政府ヲ代表シ國債整理其

他財政上必要ノ措置ヲ為シ兼テ財政ニ關

スル狀況ヲ視察スルコトヲ掌ル

第四條

財政代理官ニ若干名ヲ事務員ヲ附屬

セシムルコトヲ得

附則

第五條

臨時ノ須要ニ因リ財政代理官ニ置クコト

ヲ得

財政代理人ハ勅任又ハ奏任待遇トシテ大藏大臣  
ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

第六條 財政代理人ノ職務権限ハ財政代理官ニ

準ズ

第七條 財政代理人ノハ相当ノ手當金ヲ給スルコ

トヲ得

(第十)

明治三十九年度通常豫算方針

明治三十九年度通常豫算方針ノ研究

(第十)

明治三十九年度通常豫算方針

一 明治三十九年度、通常豫算ハ戦時特別税以外、既定歳入範圍内ニ於テ<sup>の</sup>節約ヲ旨トシ  
調劑スルモノトス

一 前項ノ主義ニ依ルトキハ新規事業費ハ一切見合スルキハ勿論既定経費、モ亦出来得ル  
限リ節約ヲ要ス

一 公債募集ハ時局ニ関スル公債ノ始末未夕付カ  
サルヲ以テ一切之ヲ為スル得サルモノトス

一 明治三十九年度ハ時局ニ関スル殊務尚ホ多キ  
見込ナルヲ以テ戦後ニ於ル完全ノ財政経画  
ハ明治四十年年度ヲ以テ確立スルキ見込中ナリ

故、二十九年、度ハ未々戰時中ノ状態ノ以  
テ諸事簡易ニ經理スルヲ要ス

(第十二)

明治二十九年、度、於ル時局、結果ニ伴フ  
經費豫算方針

(第十二)

明治二十九年年度、於ル時局、結果ニ伴フ  
經費豫算方針

一時局ニ関スル經費中臨時軍事費特別會計ハ  
來ルニ十九年三月末日ヲ以テ打切り其殘務  
ニ屬スル經費ハ一般會計ニ繰入整理スルモ  
トス右ニ関シ整理法律案ハ進テ提出  
ス

一 滿韓ニ於ル駐屯軍經費同地方鐵道ニ関スル  
經費其他時局ノ殘務ニ伴フ經費ハ節約  
ヲ旨トシニ十九年度分ハ特別ノ科目ヲ設  
ケ一般會計ニ於テ豫算整理スルモトス  
一 前項經費ハ臨時軍事費特別會計ニ屬ス

ル殘金并戰時特別稅中公債整理ニ充用ス  
ハキ金額ヲ差引タル殘金ヲ以テ支辨スハキ  
モノトス

一 軍費賠償金ノ收入ナキ結果トシテ會計ハ

非常ノ困難ヲ告グルヲ以テ殘務ハナルヘク速

ニ縮少完了シ經費ノ節約ヲ要ス又殘務

ニ屬スル不用品等ハナルヘク有利ニ處分シ

會計ノ不足ヲ減少スルヲ要ス

一 滿韓鐵道及炭山其他國有トスヘキ財產

ハナルヘク有利ニ整理シ國家ノ資源ニ供ス

ルヲ要ス

一 金州半島并樺太民政費ハ其地ノ塩業

漢業等ヨリ生スル收入ヲ以テ支辨シ内地

ノ補充ヲ要セサルノ方法ヲ講スルヲ要ス

一 韓國ノ財源ヲ整理シ駐屯軍ノ費用ヲ補充

ハナハルハク有利ニ整理シ國家ノ資源ニ供ス  
ルヲ要ス

一 全州半島并樺太民政費ハ其地ノ塩業  
漢業等ヨリ生スル収入ヲ以テ支辨シ内地

一 ノ補充ヲ要セサルノ方法ヲ講スルヲ要ス  
韓國ノ財源ヲ整理シ駐屯軍ノ費用ヲ補充  
シ得ルノ方法ヲ講スルヲ要ス

(第十三)

明治三十九年三月正其收支見込計算  
又人部  
一  
支部

(第十三)

明治三十九年之於正其收支見込計算

收入之部 支出之部

金産出高 四、八五七、七四一

(但三、四、三五、三六、三十七年平均)

貿易外正貨受過 三、〇七八、一〇五

(全上)

計 二六、九三五、八四六

三十九年之於正其増加之見込如左(現在之於正)

金産出増加見込 五、〇〇、〇〇〇

臨時事件外債利息  
陸軍省立身外債中  
三十九年之課金高  
外所有國庫債  
券利息

三九、二四七、二六〇

二、〇三九、四三八

六、〇〇〇、〇〇〇

六二、二九、四八八

改計 二七、四三五、八四六

貿易品輸入過 一四、八四二、七九〇  
(但三、四、三五、三六、三十七年平均)

一四、八四二、七九〇

差引

支出ノ過

三四、六八三、六四二

備考

本計算ハ三十四、三十五、三十六、三十七年ノ平均高リ以テ常態  
 ニ復シタルニ十九年ノ出入高下依定シ而テ今日ニ於  
 テ既ニ略々確實ト見セリ得ヘキニ十九年ノ新增加高  
 ラ計上シタルモナリ

右正貨支出超過ニ千四百六十餘万円ハ三十九年ニ  
 於テハ外債募集残存ノ内ニテ支辨ノ見込ナルモ  
 四十年後ハ別ニ方済シ考ヘサルヘカラス此外ニ公  
 債償還期限ノ來リタルモノハ其償還ニ要スル  
 正貨ノ準備セサルヘカラス

(第十三)

兌換銀行券存リ高懸理見込計算

今日ノ儘ニテ別ニ内債ヲ發行セテ進行スル

トキハ今年末ニ兌換券ノ發行高ハ三億

於テハ外債募集残存ノ内ニテ是ノ辨ノ見込ナルモ  
四十年後ハ別ノ方法ヲ考ヘサルヘカラス此ノ外ニ公  
債償還期限ノ來リタルモノハ其償還ニ要スル  
ニ資メテ準備セサルヘカラス

(第十三)

兌換銀行券發行高數見込計算

今日ノ儘ニテ別ニ内債ヲ發行セテ進行スル  
トキハ今年末ニハ兌換券ノ發行高ハ三億  
九千七百萬圓ノ巨額ニ達スルノ計算ナリトス右ハ  
内地需用款ニ超過シ物價ヲ騰貴シ輸入ヲ  
促カシ經濟ヲ紊乱スルノ虞アルヲ以テ之ヲ減縮  
スルノ方法ヲ講シ其發行高ヲ二億三千万圓  
乃至二億五千万圓ニ止ムルヲ要ス其方法左ノ  
如シ

一 今月中ニ格激ク纏ノ内債一億圓ヲ發行シ

左ノ如ク募入スルコト

- 一 三千万圓 十月拵込
- 一 三千万圓 十月拵込

一四千万円

三月拂込

計一億圓

但款面ヲ以テ發行シタルモノト仮定ス又同時

ニ二億圓ヲ發行シ来年三月末マテニ拂

込シタルコトヲ得ハ是ニ便宜ナリトス

一貯蓄債券發行

一三百万圓

九月より十二月まで賣出

一公債登記券發行

一三千万圓

九月より十二月まで賣出

一郵便貯金増加

一五百万圓

九月より十二月まで獎勵増加

總計 一億二千八百万圓

右ノ差引スル時ハ三十八年十二月末ノ兌換券

發行高ハ二億六千九百万圓トナルヘシ

右ハ未タ充分ノ目的ヲ達スルニ至ラザルヲ以テ

二 郵便貯金増加

一 五百萬圓

九月より十月まで奨励増加

總計 一億二千八百萬圓

右の差引 二九時ハ三十八年十二月末ノ兌換券

發行高ハ二億六千九百萬圓トナルヘシ

右ハ未ダ充分ノ目的ヲ達スルニ至ラザルヲ以テ

此他ノ種々兌換券回收ノ方法ヲ講ズルヲ必要

ナリトス

(第十四)

非常特別稅整理ノ方針

非常特別稅ハ平和ノ翌年末ヲ以テ廢止

(第十四)

非常特別税整理ノ方針

非常特別税ハ平和ノ翌年末ヲ以テ廢止ノ規定アルヲ以テ三十九年末ニ當テ廢止ニ歸スルヘキモノトス然レニ軍費賠償金ノ收入ナキヲ以テ公債元利ノ仕拂ニ多額ヲ要シ加フルニ時局ニ伴ヒ當テ増加スルヘキ經費モ亦少ナカラス殊ニ戦争前ト雖モ既定ノ歳入ハ動モスレハ國運ノ進歩ニ伴フ經費ヲ支辨スルニ是ラサレハ憾アリ到底之ヲ廢止スルヲ得サルハ勿論或ハ尚ホ不足ヲ告ケルコトナキヤラ恐ル然レモ非常特別税ハ吐嗟ノ間ニ起シタルモノニシテ永久税トシテハ整理ヲ要スルモノアリ亦國民ノ冀望ハ最モ租税

減少ニアルヲ以テ多ク、冬酌ヲ要スルモ他  
ニ代ル財源ナキ以上ハ課税ノ方法ニ多ク  
修正ヲ加フルモ大體ニ於テハ公債ノ整理ヲ  
了ルマテハ繼續ヲ必要ナリトス